

# 大阪大学図書館報

Vol. 1 No. 1 Sept. 1967

## 図書館報発刊に寄せて

総長 岡田 實

大学の附属図書館が教職員の研究上、また学生の修学上極めて重要な施設であることはいうまでもありません。各大学とも図書館の整備には大いに力を入れているようですが、国立大学の場合予算的な制約等もあって、どことも充分とはいえないのが実状のようであります。

しかしながら、現在は科学技術が特に重要視され、研究面でも国際的視野に立って行なうことが強く要請されるようになりつつあります。このため、各国の学術情報の把握が切実に望まれ、これらの面で図書館の任務は更に重要性を加えつつあるといえましょう。

この際、図書館関係の皆さんの一層のご努力をお願いするとともに、図書館の強化充実に力を注いで参りたいと思っております。

本学は部局が散在しているため横の連絡も悪く、いろいろ不利な条件下に置かれて居ります。これらの点から図書館が情報活動の一端として図書館報を発行されることはたいへん意義のあることと思っております。

この図書館報が今後健やかに成長するよう利用者の皆様のご協力をお願いするとともに、本学の図書館がその機能を十二分に発揮されることを切望いたしまして私のあいさついたします。

## 創刊のことば

附属図書館長 宮 地 徹

7・8年前から図書館に関係するようになって、図書館は大学の象徴であり、またそうでなければならぬと考えるようになった。

そこでは、無数の先人の知的活動の成果が集積され、利用されて、つぎの知的活動を生む。大学の教育と研究はここで実らせることができる。

従って、図書館でどんな用意があり、どのように動こうとし、そして利用して頂きたいかを広く知ってもらわねばならぬと考えた。このために、館報を発行して図書館のことをよりよく知ってもらい、利用者の声もきかせてもらいたいと思った。このことは、初めてのことではなく、前に関係していた本学の中之島図書館では、すでにNAKATO NEWSとして出ている、利用者 と 図書館を結ぶよきパイプとなっている。

こうして、この館報が発行されるようになったが、かねて機会あるたびに、図書館は利用されなければ存在価値がすくない。図書館員は本の番人ではないのだと考えてきた私には、この館報が無味乾燥なものにならず、低きにつかず、大学の象徴としての大阪大学図書館の理想をかかげて、それを求める旗印になることを願ってやまない。

つぎはどんなものが出るかと次号が期待されてこそ生れ甲斐があるというもので、編集にたずさわる図書館員の努力と学生と職員の方々の広い支持をお願いしたい。

## 大阪大学図書館報の創刊を祝して

天 野 利 武

「大阪大学図書館報」が創刊されることになったことを心から嬉しく思い謹んで祝意を表します。

私が改訂された規程によって選任されたはじめての附属図書館長となったのは一昔前の昭和三十年のことでした。当時の附属図書館の状態は、まことにみじめなものでした。建物としては、石橋の教養部の何号館でしたか、その階下の小さな二室を持つだけで、一室が書庫、一室が事務室と言った有様でした。図書館予算は、本部予算の中に含まれ僅か五十万円程度で、その中には、本部で購入する図書、雑誌、新聞紙代も入っていたように思います。

幾つかの専門学校や単科大学が集まって新制総合大学を構成した例は少くありません。戦後一気にこの統合が行われた大学もあり、戦前から幾段階を経て総合化された大学もあります。大阪大学は後者に属しますが、いずれの場合でも大学全体の附属図書館は、阪大ほどではないにしても、通例きわめて貧弱でした。大学を構成する各学部が昔て単独の大学または専門学校として独立した機能を持つ図書館を持ち、学部となっても、その独立性を維持しようとする傾向が強かったので、中央図書館の機能を発揮する附属図書館はむしろ邪魔物であったかもしれません。

私は、総合大学における附属図書館のあり方について色々考えた結果、各学部の図書館は、附属図書館の分館として、相互に有機的な関連を保ち、全学の教官や学生が、大阪大学所蔵の

図書を、それがどの分館に置かれていようとも必要に応じて随時利用しうる体制を整えたいと考えました。私は、各学部図書館（当時分室）の割拠主義打破のため、各学部を歴訪説得に努めました。石橋地区で思いもよらぬ抵抗に会って、私の在任中には、このことは十分に達成できませんでした。

しかし、附属図書館予算の独立と増額、全学的な図書目録の作製、諸規程の整備、独立の図書館の建設計画等を、当時の正田総長、中村事務局長、田中庶務課長（現事務局長）その他関係者の方々の御支援と山村事務長はじめ当時の少数の事務担当者の協力とによって、まがりなりにも進めてゆくことができたことはまことに幸でした。かくして今日の附属図書館の土台だけは、どうにか私の在任中に築くことができましたが、その上に今日の附属図書館を立派に築き上げるための歴代の図書館長及び全図書館員の御苦心は大変なものであったと思います。

私は阪大在任中は、常に附属図書館の発展を願い、歴代の図書館長が私の微力を必要とされる場合、常に心からの協力を惜しまなかったつもりです。完成後の最近の図書館の内部をまだ見ておりませんが、一度お訪ねして今昔の感を新たに致したいと考えています。

（追手門学院大学学長、元阪大図書館長）

## 期待される大学生像と教育図書館の使命

今 堀 宏 三

最近大阪大学内に入試制度委員会が設けられ、入試制度の改善について討議されている。その中で「入学する学生の望ましい人間像」なるものが話題に上がったところ、多くの委員たちは「創造性豊かな、思考力に富む人物」を望んだといわれる。入試というわくの中でこのような人を期待することに対しては問題もあるようだが、とにかく多くの人、というよりは現在の社会そのものが期待する大学生像とは、このようなものであるらしい。

不幸にして現在の入試のように知識と受験技術にウエイトがおかれている以上、入学許可されたエリートたちは教科書やノートを理解し暗記することには長じていても、一步未知の問題に直面したとなると右往左往するのが多い。レポートのテーマを与えても、一冊の本を見てその一部をまる写しすることしか知らない学生が何と多いことであろう。

大学図書館は研究図書館と教育図書館の二重性格をもつが、教育図書館とはとりもなおさず思索の場であり、また創造性啓培の温床である。与えられた問題の解決や講義内容の理解、さらにはその系統的な思索発展に伴う新しい問題の提起などのためには、かっこうの場である。豊中図書館はこのような教育図書館としての機能を主体とするように運命づけられているが、事実利用者の80%以上が教養部学生である。もちろん教育図書館としての現状は決して満足すべきものでなく、とくにその主体ともいうべき開架図書の冊数や配置に多くの改善すべき余地がある。施設や予算を伴うことではあるが今後できるだけ改善し図書館近代化の実をあげていきたい。それとともに利用者、とくに教養部学生の閲覧マナーは現在の図書館機能を著しく阻んでいる。私はいくつかのアメリカの大学図書館を利用したことがある。出入口における図書館員による持物チェックはきびしく、一方閲覧室内ではページをめくる音にさえ気を配る程の静かさが殊に印象的であった。

（教養部教授・図書館委員）

## ■ 図書館委員会について

図書館の重要事項は、図書館委員会で審議されることになっています。現在委員は各学部、教養部、各研究所および医学部附属病院から選ばれた2名の教授と図書館長および事務局長の32名で構成されています。読者のうちにはよくご存知のない方もあるかと思しますので、紙面をかりて、ご紹介申し上げます。

図書館長	宮地教授 (委員長)		
文学部	森田教授	梅溪教授	工学部
法学部	木村教授	中野教授	基礎工学部
経済学部	横山教授	渡辺教授	教養部
理学部	谷教授	殿村教授	微生物病研究所
医学部	丸山教授	山野教授	産業科学研究所
医学部附属病院	金子教授	藤浪教授	社会経済研究所
歯学部	河村教授	下総教授	蛋白質研究所
薬学部	青沼教授	田村教授	事務局
			安藤教授 副島教授
			林教授 中村教授
			犬養教授 今堀教授
			米田教授 加藤教授
			桐山教授 粟谷教授
			二階堂教授 森嶋教授
			成田教授 宮沢教授
			田中事務局長

## ■ 図書館の概況

(昭和42年5月1日現在)

区分	蔵書数	昭和41年度受入数		施設		館員数	備考
		図書冊数	雑誌種類数	建物面積	座席数		
本館	440,712	31,280	3,012	(912) $m^2$ 3,094	(187) 500	40	施設欄の( )内数字は、理学部、基礎工学部、図書室の分を示した外数である。
中之島分館	134,009	4,113	1,688	2,503	164	19	
工学部分館	129,393	5,942	1,729	542	48	8	
薬学部分館	11,154	912	135	336	67	3	
産研分館	17,473	2,248	256	141	12	3	
計	732,741	44,495	6,820	7,528	978	73	

### 旧南校図書の整理ができました

旧南校図書および、真島文庫の図書整理を夏期休業中に各掛員の協力と、アルバイトを多数投入してできあがりました。真島文庫は書庫入口右側に、旧南校図書は書庫中央右側へ、接架式をたてまゑとして配架されており、各棚にはそれぞれの分類が表示されています。どしどし利用して下さい。整理された図書の内訳は、南校図書約20,000冊(和漢書 約600冊 帙製本予定) 真島文庫 1,856冊

■■■■■■■■■■ 会 議 ■■■■■■■■■■

————— 図書館分館長会議 —————

42.7.10(月)—10.00a.m.~2.00p.m. 於 中之島分館

①昭和41年度決算について ②昭和42年度予算について ③学生閲覧用図書推せん方法の変更について ④委任経理金(故島田信雄奨学金)による図書購入について ⑤宮地館長の米国出張に伴なう館長事務代理について 以上の議題について協議し、図書館委員会に提出する案を決定した。

————— 図書館委員会 —————

42.7.17(月)—10.00a.m.~0.30p.m. 於 本館

7月10日の分館長会議で討議した④から⑤までの議題については大体原案どおり決定した。このほか⑥吹田団地の図書館のあり方 ⑦図書館施設基準の運用 ⑧医療技術短大学生の本館利用 ⑨館報の発行および逐次刊行物の総合目録の作成について審議し、5月20日~22日の3日間、名古屋大学で開催された全国国立大学図書館長会議について報告した。

————— 豊中地区運営委員会 —————

42.7.25(火)—10.00a.m.~0.30p.m. 於 本館

①昭和41年度運営費決算 ②昭和42年度運営費予算および部局分担金 ③本館書庫外部通路わきに印刷室等を設ける案 ④新聞紙の保存 ⑤館内学生の喫煙場所についてそれぞれ審議決定した。

————— 中之島分館運営委員会—第27回— —————

42.7.4.(火)—3.00~5.00p.m. 於 中之島分館会議室

① 本年度維持費について

総額555万円 中之島地区部局負担額400万円 微研の分担額の取扱いについて協議

米田委員(微)：移転後も中之島分館維持費を負担し、中之島との関係を続けたい。

成田委員(蛋)：微研の特殊性で負担するのだから蛋白研移転のときの前例にはならない。

② 7月も夜間開館を続けることについて

③ 分館長室を5階に設けることについて

④ 中之島分館の将来計画について

もし医学部が万国博跡地に移転した場合、当館の運営面、資料面に多大の影響を与えるので、それに対処する計画を立てる時機にきていることが強調された。しかし前提条件が不確定で結論を出すにはいたらなかった。

---

 工学部分館運営委員会
 

---

42.7.8.(土)—10.30a.m.~0.30p.m 於 工学部中会議室

① 42年度中山報恩会寄贈図書を選定

② 吹田図書館建設1年延期にともなう諸問題

今年度着工予定が43年度に延び完成は44年度となった。そこで、(a)吹田地区へ先行する学科の研究室や学生に対する整理閲覧の業務をどうするかが問題となったが、次回までに図書館側で具体案を考える (b)設計図は従来案にとらわれず想を練りなおす (c)新図書館に空調調節装置を備えるよう建設委員会へ要望書を提出する、の3点が決った。

③ 図書館職員の定員について (安藤委員長)

統計によると、年間増加冊数・購入雑誌点数は、昭和31年度を100とすると41年度は約240、教官・事務職員数は約160と伸びているのに図書館職員数は据置きである。従って定員問題委員会に増員を要望することになった。

---

 全国国立大学図書館長会議——第14次 (昭和42年度) ——
 

---

42.6.20.(火)~22(木) 於 名古屋大学

本年度の館長会議総会は、全国74国立大学および特別参加の琉球大学、図書館短期大学の館長、部課長、事務長ら164名が出席して開催された。従来の館長会議は、文部省主催の国立大学図書館研究集会と同時に開催されていたものであったが、本年度からこの研究集会も館長会議の自主的な運営に委ねられることになった。

総会では一般報告のほか、事務量調査・相互協力・司書職制度・物管法上の図書の取り扱い・実態調査等の特別委員会から、それぞれ配布資料によって詳細な報告がおこなわれた。また、文部省情報図書館課からは、昭和42年度大学図書館関係主要予算等関連事項の説明があった。

研究集会では、「館長会議の組織強化について」を主要研究協議事項として、熱心な討議がおこなわれ、図書館問題の解決については、自主的に解決していこうとする姿勢が強く打出された。

館長会議は、全国9地区から提出された32の議題について、全員が3つの分科会に分かれ、予算関係、人事関係、奉仕関係について、それぞれ極めて活発な討議を行ない、要望事項等はさらに全体会議にはかってとりまとめられ、関係方面に要望することになった。

---

 国立大学協会に「大学図書館制度特別委員会」設置さる
 

---

全国国立大学図書館長会議では、多年にわたって国大協に対し“大学図書館の整備・充実に関する方策を検討するための特別委員会設置”を要望してきたが、さきほど開催された国大協総会において、標記の特別委員会の設置が決定し、今秋から活動に入ることとなった。なお本学の岡田総長もメンバーに加わることになっている。

## ■ 大阪大学学術雑誌総合目録

— 欧文編刊行計画成る —

最近の学術研究に関する、各分野の文献量は、自然科学、人文・社会科学を問わず、年々増加し、研究者はこの膨大な文献を検索入手するのに、大きな労力を費さなければならない。

総合目録は、これら文献の有無、および所在を知るために、欠かすことのできない資料であって、研究者のための羅針盤の役目をしてくれるものと考えるが、遺憾ながら、当阪大には、この種の出版物は、昭和12年に「大阪帝国大学雑誌目録」が出版されて以来、今日まで中絶していた。近年、図書館も徐々に、軌道にのりつつある折柄、このたび学内外の要望にこたえて、各方面の御協力を願い、とりあえず学術雑誌総合目録— 欧文編 — の刊行を計画し、その準備を着々とすすめている。

館員も、よりよきものにしたいと、鋭意努力するつもりでいるので、関係者の方々の、御期待と御協力をお願いしたい。

編集者一同は、どこまでも使い易く、便利な目録ということをもットーとし、内容は、学問分野別区分はやめ、欧文編 和文編の二本立とした。

総合目録欧文編の内容

1. 冊子目録 B5版 約500頁
2. 収録範囲：本館，分館，学科，講座単位まで
3. 配付先：教授，助教授，専任講師および研究室各1部，各分館等

## ■ 図書館長の海外出張

宮地館長は8月9日から9月27日まで下記のような日程で海外へ出張した。

- ▲ 8月9日～18日 アメリカ合衆国国務省で図書館管理の調査（ワシントンD.C.）
- ▲ 8月19日～22日 万国東洋学会議に出席（アンナーバー）
- ▲ 8月23日～  
9月25日 前記国務省で図書館管理の調査

## 図書館長事務代理

宮地館長の海外出張にともない館長事務代理に歯学部河村教授（中之島分館長）が選出された。

## 展示会

「世界理工学図書・雑誌展」出版文化国際交流会と附属図書館の共催で、9月中旬に行われる予定です。場所は本館3階を予定しています。この展示に参加している出版社は、世界各国におよび、日本のもの1,000点も加えて約4,500点ほどになるようです。この展示会は国内各大学で巡回しており、非常に好評ですので皆様方の来場を期待しています。なお日時等についてはおって案内いたします。

■■■■■■■■■■ 分館だより ■■■■■■■■■■

第 3 回学術映画会

42.9.4.(月) 2.00p.m.~ 中之島分館視聴覚室  
(高速氷結切片標本作成法) 16mm トーキー

Rapid frozen section techniques

■■■■■■■■■■ 日 程 ■■■■■■■■■■

- 9月5日(火) 1.00p.m. 「電子計算機と図書館」: 近畿地区国公立大学図書館職員研修会  
(松下会館4階講堂)
- 〃 12日(火)~18日(月) F I D (国際ドキュメンテーション連盟) 第33回総会  
(東京プリンスホテル)
- 〃 28日(木)~29日(金) 国立七大学附属図書館協議会 第41次総会 (東北大学)
- 10月3日(火)~6日(金) 文部省大学図書館職員講習会 (京都大学)
- 〃 21日(土)~22日(日) 国立学校図書専門職員採用第1次試験 上級・中級(中之島地区)
- 11月8日(水)~10日(金) 日本医学図書館協会 第38回総会 (久留米大学)

■■■■■■■■■■ 編 集 委 員 会 よ り ■■■■■■■■■■

宮地館長より、阪大図書館近代化の一環として図書館報を発行してみても、と指示され、図書館委員会に上程承認されたのが7月17日、それから創刊まで僅かに1ヶ月半しかなく、しかも編集委員会を開くにしても蛸足大学の悲しさで大変骨が折れた……。と弁解がましいことを云ってもはじまらないが、初号の出来ばえは決して満足すべきものではなかった。今後は、みなさまの御支援により「読まれる館報 利用される館報」実現に努力したい。読者諸氏の積極的な御投稿と御批判をお願いしたい。

編集スタッフ

編集発行人/直木事務部長

編集委員長/藤井閲覧課長 副委員長/山口整理課長補佐

委員/企画: テーマ決定 執筆者選定 藤井 山口

庶務: 契約 発送 小嶋 (総務掛) 川崎 (整理掛)

原稿: 執筆依頼 督促 集稿 山口

整理: 原稿点検 割付 校正 浅野 (中之島分館) 松浦 (理学部図書室)

レポーター: 田中 (工学部分館) 町井 (薬学部分館) 村山 (産研分館)